様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	教職実践力高度化コース／ 池田　誠喜

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1．目標・計画

教職実践力高度化コースが目指すキャリアに相応した実践力、そして協働力、さらに自己教育力について授業内容、授業方法、成績評価の3観点を統合させ、学生のロールモデルとなる教育活動を行う。
①学校現場での事例を取り上げ、それに対する理論的知識の獲得と応用方法について検討し、専門的知識を実際レベルで活用できる方略を生み出すことができるようになることに重点を置く。
②講義、発表、演習を効率よく取り入れ、実践力を磨くためのGW、PBLを積極的に導入する。
③特に形成的評価を重視し、各授業ごとにフィードバックできるような体制を構築し、学生が自己評価に加え、他者評価を効果的に形成的評価に取り入れることができるようにする。

2．点検・評価

目標①においては,中間報告で示した評価に基づき、授業内容量の適切化を図り、受講生が内容について十分理解が深まるよう分量に配慮した。また、受講者から実践的に活用できる内容であったという意見をいただいたが、逆に理論的な裏付けや汎用性という面では課題が残った。今後はさらに理論と実践が結びつく授業の工夫を進めていきたい。
目標②においては、中間報告後の改善を心がけたため、内容量が多く消化しきれない場面は改善された。但し、授業内容を充実させるという意味ではまだまだ不十分なため、授業内容と時間配分及び授業内容とその効果について工夫を行う必要がある。また、演習におけるGW、PBLの方法は効果的であり受講者の評価は高かった。今後はさらに効果的な演習内容を構築していきたい。
目標③においては、毎回のレポート返却や受講状況レポートを示すことで形成的評価を重視したフィードバックを行うことができた。今後さらに授業における形成的な評価を充実させるため、評価内容と手順の両方についてシステム化していきたい。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

①実務家教員としての経験を活用し、現職教員院生へのサポートを現場目線で行う。同様に教員志望院生に対して現場の様子や対応方法、取り組む姿勢などについて積極的に情報を提供するなど志望動機を高める働きかけを行う。
②学部生に対しては各個人のレディネスに配慮して基礎・基本的な内容から丁寧にわかりやすい授業になるよう努める。
③ヒューマンサービスに関わる者として、自分自身がロールモデルとなるよう勤める。

2．点検・評価

目標①については、地域プロジェクトフィールドワーク実習において、現場における実践を念頭においたサポートを行うことができたと考えている。また、学部・長期履修生の授業において、現職教諭の授業を設定したことで、実際の教育現場を具体的に知るこができたという意見ますます教員になりたいという気持ちが増々高まったという声が授業アンケートに寄せられた。今後も学校現場を知ることできるような方法を工夫していきたい。
目標②について、今年度は、主に道徳教育指導論の授業において学部生の指導に関わった。毎回のレポートのフィードバック、授業の受講状況を一人一人に示し、学部生が他者評価によって学習の動機づけが高まるよう配慮した。出席状況やレポート提出の状況は概ね良好であった。
目標③については、大学構内外においてロールモデルとなるよう勤めた。次年度はさらに積極的に学生支援に関わるように心がけたい。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

①これまでの学校現場経験からの資料を整理し、生徒指導・学校教育相談を中心とした実践事例研究を行う。
②レジリエンスの学校教育への適用に関するデータの収集とまとめを行う。

2．点検・評価

目標①については、これまでの学校現場経験からの資料を継続して整理を行っている。又、本学の生徒指導に関わるプロジェクトに参加し、関連する調査研究に関わらせていただいた。
目標②についてはレジリエンスの学校教育への適用に関するデータの収集とまとめを行い、一部を学会誌論文に投稿した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

①新任教員として大学運営を理解し力を発揮できるよう努める。
②教職大学院新カリキュラムを理解し、その上で教育にあたりながら自己評価とともにカリキュラムについての評価にも貢献できるよう努　める。

2. 点検・評価

年度目標①②について、中間報告でも述べたが、本年度赴任して5月末より1月程病気休暇をいただき両用させていただき大変な迷惑をおかけした。進行状況は大幅に遅れてしまった。次年度、遅ればせながら大学運営に積極的に関わっていく所存である。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

1. 目標・計画

①支援アドバイザーに登録し、大学と地域や学校と連携強化に努める。
②学校心理士SVとして学校心理士のスーパーバイズを行うとともに。学校心理士養成の支援に努める。

2. 点検・評価

目標①については、8月に支援アドバイザー制度を利用して鳴門市内小学校教員対象の研修会を開催した他に、学校臨床の公開講座にスーパーバイザーで参加した。引き続き機会があれば積極的に地域の活動連携してコミュニティに貢献するよう努めたい。
目標②については、県外小学校及び中学校のケースにのスーパーバイズを年間を通じて行った。学校心理士養成の具体的な動きがとれなかったことが課題として残った。次年度工夫したい。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）